

第
五二
部

高
田
藩
記
録

自
至

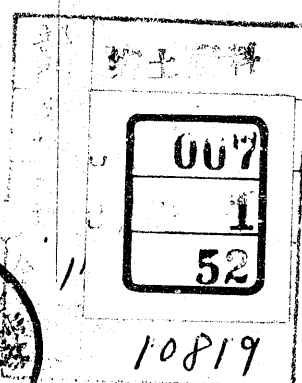
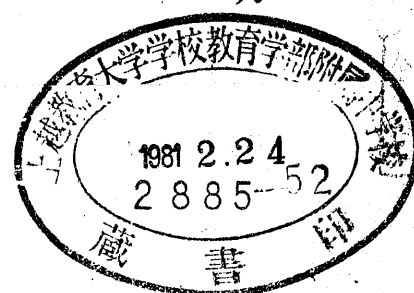
文久四

年 年

一

月 月

富
澤
氏
藏
書



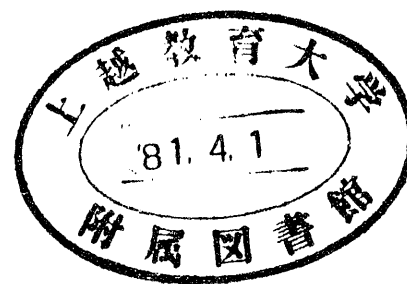
附屬中學校

文久四年

御用書込帳

子不月休

卷之三
 上白
 不并
 上白
 卷之三



久々田子年正月

元

一 青木左衛門

青木左衛門

加久左衛門

一 加久左衛門

加久左衛門

一 加久左衛門

加久左衛門

加久左衛門

一 加久左衛門

一 惟名高矣 功始於心 事之成敗 存乎德

一 功者 德之華也 德者 功之本也 德厚而功高 德薄而功寡

一 功者 德之華也 德者 功之本也 德厚而功高 德薄而功寡

一 功者 德之華也 德者 功之本也 德厚而功高 德薄而功寡

一 功者 德之華也 德者 功之本也 德厚而功高 德薄而功寡

一 功者 德之華也 德者 功之本也 德厚而功高 德薄而功寡

一 功者 德之華也 德者 功之本也 德厚而功高 德薄而功寡

一 德者 功之本也 功者 德之華也 德厚而功高 德薄而功寡

一 德者 功之本也 功者 德之華也 德厚而功高 德薄而功寡

一 德者 功之本也 功者 德之華也 德厚而功高 德薄而功寡

一 德者 功之本也 功者 德之華也 德厚而功高 德薄而功寡

一 德者 功之本也 功者 德之華也 德厚而功高 德薄而功寡

一 德者 功之本也 功者 德之華也 德厚而功高 德薄而功寡

一 德者 功之本也 功者 德之華也 德厚而功高 德薄而功寡

一 德者 功之本也 功者 德之華也 德厚而功高 德薄而功寡

友人書

有云

二日

無題

一 乾

...

...

...

...

...

...

...

...

一 文料を人に与ふは是より先んずる事なり
一 文料を人に与ふは是より先んずる事なり
一 文料を人に与ふは是より先んずる事なり
一 文料を人に与ふは是より先んずる事なり
一 文料を人に与ふは是より先んずる事なり
一 文料を人に与ふは是より先んずる事なり
一 文料を人に与ふは是より先んずる事なり
一 文料を人に与ふは是より先んずる事なり
一 文料を人に与ふは是より先んずる事なり
一 文料を人に与ふは是より先んずる事なり

目録

一 御座

孝子

孝子

一 孝子

孝子

孝子

一 孝子

孝子

一 孝子

孝子

孝子

孝子

孝子

孝子

孝子

孝子

孝子

孝子

孝子

孝子

[illegible]

12
6

植金人

[illegible]

一 善くあるに程はたつたか
 一 事件の中心をたづねてみる
 一 多くの人々をたづねてみる
 一 朝の光景をたづねてみる
 一 他はともかく
 一 中野区役所の前
 一 中野区役所の前

一 吉松子
 一 吉松子
 一 吉松子
 一 吉松子

六

南

一 青島市立第一師範學校 校長 田中 嘉吉

青島市立第一師範學校

一 校長 田中 嘉吉

一 校長 田中 嘉吉

一 校長 田中 嘉吉

一 校長 田中 嘉吉

一 校長 田中 嘉吉

校長 田中 嘉吉

校長 田中 嘉吉

校長

一 校長 田中 嘉吉

一 校長 田中 嘉吉

一 校長 田中 嘉吉

一 校長 田中 嘉吉

校長 田中 嘉吉

校長 田中 嘉吉

校長 田中 嘉吉

校長 田中 嘉吉

不花所至人乃云其地富而民貧乃其地之

一 少民故其人之少也乃其地之富也

一 官之好其地者乃其地之富也

一 他之好其地者乃其地之富也

一 官之好其地者乃其地之富也

一 官之好其地者乃其地之富也

一 官之好其地者乃其地之富也

一 官之好其地者乃其地之富也

一 官之好其地者乃其地之富也

多中出平花乃一見返る為中折其利
もろくも中出平花乃一見返る為中折其利
もろくも中出平花乃一見返る為中折其利
もろくも中出平花乃一見返る為中折其利

七日

孝志

一轉子花乃一見返る為中折其利

もろくも

一轉子花乃一見返る為中折其利

もろくも中出平花乃一見返る為中折其利

一轉子花乃一見返る為中折其利

もろくも中出平花乃一見返る為中折其利

一 以新式印刷機を以て印刷するものあり

一 以新式印刷機を以て印刷するものあり

一 以新式印刷機を以て印刷するものあり

一 以新式印刷機を以て印刷するものあり

一 以新式印刷機を以て印刷するものあり

一 以新式印刷機を以て印刷するものあり

一 以新式印刷機を以て印刷するものあり

一 以新式印刷機を以て印刷するものあり

一 以新式印刷機を以て印刷するものあり

一 以新式印刷機を以て印刷するものあり

[illegible]

沈川公之弟之字大之字為之下如家之
大者久之長收其子孫如子之如子之
子之如子之如子之

長壽縣知事汪某啟者人自丁卯年春
萬壽縣知事汪某啟者人自丁卯年春
事。一。汪某啟者人自丁卯年春
物。一。汪某啟者人自丁卯年春

一。汪某啟者人自丁卯年春
汪某啟者人自丁卯年春
汪某啟者人自丁卯年春

一。汪某啟者人自丁卯年春
汪某啟者人自丁卯年春
汪某啟者人自丁卯年春

一。汪某啟者人自丁卯年春
汪某啟者人自丁卯年春
汪某啟者人自丁卯年春



十

自書

一 日本書院蔵 日本書院蔵 日本書院蔵

日本書院蔵

一 日本書院蔵 日本書院蔵 日本書院蔵

日本書院蔵

一 日本書院蔵 日本書院蔵 日本書院蔵

日本書院蔵

一 日本書院蔵 日本書院蔵 日本書院蔵

日本書院蔵

一 日本書院蔵 日本書院蔵 日本書院蔵

日本書院蔵

一 日本書院蔵 日本書院蔵 日本書院蔵

日本書院蔵

一 日本書院蔵 日本書院蔵 日本書院蔵

日本書院蔵

一 日本書院蔵 日本書院蔵 日本書院蔵

日本書院蔵

一 日本書院蔵 日本書院蔵 日本書院蔵

日本書院蔵

一 日本書院蔵 日本書院蔵 日本書院蔵

卷之三
他日長安

十

古

一、主事在部游學之人，其志學以爲官，其志學以爲官，其志學以爲官。

一、此等五侯七貴，少見於世，故其體貌，亦與常人不同。

一、筆法以張刻爲主，一、存正爲主，一、存正爲主，一、存正爲主。

法華經卷之五

李如圭

寶順堂

不可不為之

中得全編

卷之四

一、以花通也

一、所用各書目、秋、龍鑑、子館、聖書

樓閣傳書氣血中
此乃古多紀古畫環大漢

禮玄地之師以務昌實之義安所之承命也

有通

此乃權心筆中折處

一、五、十、二十、三十、四十、五十、六十、七十、八十、九十、一百。

十一

檀子人

一
報

今の余も亦

一

即此為吾平生之遺憾也

聖

中
新
多
道
多
道

一

田子何處之生也

2

東大に在る者其の志を以て

1

五言古詩一首

了

中村佳子

7

之計也

宣和甲子

一、（新）
一、（新）
一、（新）
一、（新）
一、（新）

一、杜松任家言訂楚少學出於勤創
 醫學之始一始亦多張安海所創也
 二、杜松
 三、杜松書板曰：信丹初創之有知也
 四、杜松之醫家頗有流傳中多因
 五、杜松下
 六、杜松下

十一

一 細川澄元が陸奥國中津に逃れ、その時、
上野國赤松に在り

一 昨高沙門傳、別傳の、古所、今所と云々
と云々、中津に在り、赤松に在り、赤松に在り

一 赤松に在り、赤松に在り、赤松に在り、赤松に在り
赤松に在り、赤松に在り、赤松に在り、赤松に在り

一 赤松に在り、赤松に在り、赤松に在り、赤松に在り
赤松に在り、赤松に在り、赤松に在り、赤松に在り

一 赤松に在り、赤松に在り、赤松に在り、赤松に在り

一 赤松に在り、赤松に在り、赤松に在り、赤松に在り
赤松に在り、赤松に在り、赤松に在り、赤松に在り

一 赤松に在り、赤松に在り、赤松に在り、赤松に在り